

光明台中学校区 未来の学校づくりニュース



令和8年
9月

No.4

8月23日(日)に4回目の意見交換会を開催しました。

意見交換会の主な内容

- 通学対策について
- 新校の建設場所について
- 跡地活用について
- グループワーク

※資料はこちら



新校の建設場所について

学校名	敷地面積	航空写真	敷地の状況等
光明台中学校	27,001㎡		(利点) ・敷地面積は最も大きい ・両小学校の中間に位置 ・光明池緑地運動場に近く、工事期間中における活用がしやすい (懸念点) ・不整形で高低差がある ・工事車両の進入路確保やクラブハウス棟の解体等が必要
光明台北小学校	22,006㎡		(利点) ・道路面からフラットで整形地 ・工事車両がグラウンドに直接進入でき、工事しやすい (懸念点) ・敷地面積が小さい ・南校区からは遠距離になる
光明台南小学校	22,063㎡		(利点) ・整形地 (懸念点) ・敷地面積が小さく、高低差がある ・北校区からは遠距離になる

両校区から通いやすく、工事期間中に緑地運動場を活用しやすい光明台中学校での現地建替えを中心に検討。地域からいただいた光明台北小裏の山林を買収する案については、測量をはじめ、様々な対応に相当な時間を要することから実施しない考え。

学校の統廃合により通学距離が長くなり、小学生の通学距離が2Kmを超える場合はバス通学を検討。

跡地活用について

いつ頃跡地が使えるようになる？

新校の開校後に旧校舎を除却する場合、約10年程度先になる見込みです。そのため、すぐに活用できるわけではありません。

なぜ民間活用？

- ①人口減少や税収減少に備え、市が管理する公共施設を減らしていく方針です。
- ②学校の整備には多額の費用が必要となることから、市の費用負担を軽減する必要があります。

市は跡地をどうしたい？

公共施設として活用する予定はありませんが、どのような機能が必要か地域の皆さんの意見も聞きながら、民間事業者等に活用してもらうことを考えています。

具体的にどうやって？

「サウンディング調査」という方法で、民間事業者から活用アイデアやどんな事業ができそうかの聞き取りを行います。地域の皆さんの意見を確認しながらサウンディング調査を実施します。

グループワークでの主な意見

新校の建設場所について

- ・中学校敷地が有力だと思う。子どものことを第一に、スピーディーに進めてほしい。
- ・通学路については、距離だけでなく高低差の問題もあり、低学年の児童にとっては負担が大きい。バスの設定は納得できる線引きやルートを考える必要がある。
- ・工事中はグラウンドが狭くなり、体育や部活動は体育館利用が中心になるが、制約の中で工夫できることを考えることで良い学びの機会に変えればよい。
- ・光明台北小学校の用地買収については、実際に交渉せず、憶測だけで実施しないと判断するのはいかがか。
- ・中学校で建設工事を行う場合、安全が確保できるのであれば、工事期間中の体育や部活動については緑地運動場を活用すれば良い。
- ・緑地運動場を使うのであれば、地域の利用者に向けての説明が必要。
- ・大きい音が出るような工事は長期休暇をメインに行うなど、工事の期間や時間の工夫が必要。
- ・グラウンドの半分ずつ工事を行うなど、段階的に工事を実施することで、工事期間中もグラウンドを使えるようにしてほしい。
- ・工事過程を見届けられることは学びにも繋がる面があると思う。

跡地に求める機能について

- ・魅力的な学校ができて、跡地に住宅ができれば人口も増えるのではないか。
- ・子育て世帯向けの複合施設（カフェや公園）があればよい。
- ・3つの避難所が1つになって機能を維持できるのかが不安。
- ・少子高齢化の中で、コミュニティや文化をつなぐような場所がほしい。
- ・子どもたちの居場所になるようなものがほしい。
- ・世代によって意見が異なるため、子どもの意見も聞いてほしい。
- ・体育館を残して地域で活用できないか。
- ・民間企業を誘致する場合は、子どものことや街の活性化を考えてくれる企業がいい。

今後の予定について

新校の建設場所や跡地活用の振り返りを行い、地域で開催予定の説明会やアンケート調査の内容について取り上げます。

ニュースレターをメールで配信します！

ニュースレターの配信を希望される方は、右の二次元コードを読み取っていただき、お名前、「ニュースレター希望」と記載のうえ、メールを送信してください。



(問合せ先) 和泉市教育委員会事務局
教育部 教育総務課

(TEL) 0725-99-8196

(E-mail) komyodai@city.osaka-izumi.lg.jp